メッセージ　3

命の小麦、良い種、地の塩、世の光、人を捕る漁師

聖書：マタイ 3:12．13:38．5:13-16．4:16-20

Ⅰ．信者は、命の小麦によって象徴され、主の倉に収められます――マタイ 3:11-12．13:24-30，38-42：

A．信者は小麦であり、神聖な命を内側に持っています。命は、人によって享受される神ご自身です――詩 36:7-9．ヨハネ 1:4．10:10．14:6．6:63。

B．キリストの命がわたしたちの中で妨げられないことを願うなら、わたしたちは十字架の砕き、すなわち、すべてを含む霊の中のキリストの殺す死を経験しなければなりません。それによって、わたしたちの中の以下の障害は対処され、取り除かれることができます：

1．クリスチャンであるとは、わたしたちの中の生けるキリストを顧慮し、キリスト以外の何ものもわたしたちの目標としないことを意味します。この事に対する障害は、命の道を認識せず、キリストをわたしたちの命としないことです――マタイ 7:13-14．ピリピ 3:8-14．コロサイ 3:4．ローマ 8:28-29。

2．第二の障害は偽善です。人の霊性が決定されるのは、外側の現れによるのではなく、いかにキリストを顧慮するかによります――マタイ 6:1-6．15:7-8．ヨハネ 5:44．12:42-43．参照、ヨシュア 7:21。

3．第三の障害は反逆です。わたしたちは事を行なうことにおいて非常に活動的で熱心であったとしても、わたしたちの内側の生けるキリストをないがしろにすることによって、依然として生けるキリストを監禁し、彼に従わないかもしれません――レビ 14:9，14-18．11:1-2，46-47．ローマ 16:17．Ⅰコリント 15:33。

4．第四の障害は、わたしたちの天然の能力です。もしこれらの天然の能力がわたしたちの中で砕かれていないままであるなら、それらはキリストの命にとって問題となります――2:14-15．3:12-17．ユダ 19-21 節。

Ⅱ．信者は、良い種（王国の子たち）によって象徴され、主によってまかれて彼の王国の中で成長します――マタイ 13:24，38：

A．種は、神の言葉（4，19 節．ルカ 8:11）、キリストご自身であって（Ⅰペテロ 1:23）、わたしたちの中へとまかれて、わたしたちを良い種、すなわち、復活の子たちとならせます（マタイ 13:38．ルカ 20:36-38）。

B．神の言葉は麦粒として、神を命としてわたしたちの中へと分与して、わたしたちを養います。また言葉は火として、わたしたちとわたしたちが信頼している多くのものを焼きます。また言葉は槌として、わたしたちの自己、天然の命、肉、情欲、観念を砕きます――エレミヤ 23:28-29。

C．良い種として、わたしたちは主に従って地の中へと入って死に、復活の中で多くの実を結ばなければなりません。死ぬことと、十字架を経験することは、わたしたちの魂の命、天然の命を否み、拒絶して、神聖な命によって生きることです――ヨハネ 12:23-26，31-32。

D．良い種をまくことは殉教です。なぜなら、「あなたがまくものは、死ななければ生

かされない」からです（Ⅰコリント 15:36）。わたしたちは肉体的に、精神的に、霊的に殉教者となることがあり得ます（Ⅱテモテ 4:6．マタイ 16:25．Ⅰコリント 16:12．Ⅱコリント 2:12-14）。

E．キリストの愛情深い愛は、わたしたちに押し迫って、わたしたちが彼に生き、彼に死に、彼のために殉教者となるようにします――5:14-15．ローマ 8:35-37．14:7-9．啓 2:10．12:11。

F．わたしたちの環境におけるイエスの致死力は、内住する霊と協力して、わたしたちの天然の人を殺し、神聖な命を解き放ちます――ローマ 8:2, 13．Ⅱコリント 4:10-13．エレミヤ 48:11。

G．主に対するわたしたちの奉仕はすべて、神を起源としなければならず、わたしたち自身を起源としてはなりません。わたしたちが自分の中で彼の死に働いていただくとき、彼の復活の命は、わたしたちを通して他の人の中へと分け与えられることができます―Ⅱコリント 4:12-13．1:8-9．4:5．10:13：

1．ダビデは神を愛し、神を畏れ、神と協力して、神に働いていただきました。ダビデは神の宮を建造する能力を持っていましたが、神の言葉が彼に臨んだ時、彼はやめました――サムエル下 7:18，25，27．参照、ルカ 1:38。

2．ダビデがやめたことは、宇宙において二重の証しを打ち立てました。第一に、この宇宙におけるすべての働きは神から来るべきであって、人からであってはなりません。第二に、重要なのは、神が人のために何を行なうかであって、人が神のために何を行なうかではありません。

3．宮の建造者と宮の敷地はいずれも、ダビデの罪が赦されたことから出て来ました。すなわち、神がダビデのために行なったことから出て来ました――サムエル下 12:24-25．24:1-10，18-25．歴代上 21:18．歴代下 3:1．詩第 51 篇。

4．M・E・バーバー姉妹は言いました、「神のために働くのをやめることができない人はだれも、神のために働くことはできません」。

Ⅲ．信者は地の塩であり、腐敗し腐った地の細菌を殺し除去する人です――マタイ 5:13．**参照、レビ** 2:13：

A．ロトの妻は塩の柱になり、塩味をつける機能を失いました。なぜなら彼女は未練がましくソドムを振り返って見たからです。それは彼女が、神が滅ぼそうとしていた邪悪なこの世を愛し、尊んでいたことを示します――創 19:15, 24-26．ルカ 17:32。

B．わたしたちは主に従う生涯の中で、わたしたちの持っているすべて、なし得るすべてをこのためにささげなければなりません。そうでないと、わたしたちは失敗し、味のない塩となって、栄光の領域から恥辱の領域へ投げ捨てられるでしょう――14:31-35．参照、啓 3:21．ヨハネ 16:33。

C．わたしたちは失望すべきでも落胆すべきでもなく、むしろすべてに十分な恵みとしての手順を経て究極的に完成された三一の神によって、増強され強められて、神聖なエコノミーを生かし出すべきです――Ⅰコリント 15:10．Ⅱコリント 12:9．Ⅱテモテ 4:22．コロサイ 4:6。

Ⅳ．信者は世の光であり、自分たちの光を人々の前に輝かせ、この世の暗やみを除き去る人です――マタイ 5:14-16．**エペソ** 5:8：

A．光は神の臨在です。わたしたちは神から生まれているので、今や主の中で光であり、光の子供たちとして歩かなければなりません――Ⅰヨハネ 1:5．エペソ 5:8-9。

B．妄想、自己欺瞞から救われる道は、光の中を生き、神の照らしに開くことであって、自分自身の光を生み出すことではありません――詩 36:8-9．80:17-19．139:23-24．Ⅰヨハネ 1:5，7，9．イザヤ 2:5．50:10-11：

1．妄想にとりつかれている人の症状は、彼が考え行なうことは完全に間違っているのに、自分が完全に正しいと考え、信じているということです――マタイ 6:22-23．イザヤ 5:20。

2．罪を犯すことは汚れの事柄です。罪を犯したのに、罪を犯していないと信じ、それを正当化するのは、暗やみの事柄です――Ⅰヨハネ 1:8，10。

3．妄想、自己欺瞞の原因は、光よりも暗やみを愛すること（ヨハネ 3:19-20）、高ぶり（オバデヤ 3 節）、真理の愛を受け入れないこと（Ⅱテサロニケ 2:10-11．箴 23:23）、唯一の神からの栄光を求めないことです（ヨハネ 5:44）。

C．命は光の輝きから来るのであり、光は神の言葉の中にあり、光は命の内なる感覚です――Ⅱコリント 4:6．詩 119:105，130．イザヤ 66:2．ヨハネ 8:12．ローマ 8:6，14。

D．「あなたの目は体のともし火である。あなたの目が単一であるなら、あなたの全身も光に満ちる．しかし、目が悪ければ、あなたの体も暗い。だから、あなたの内にある光が、暗やみにならないように用心しなさい。あなたの全身が光に満ちていて、暗い部分がないなら、ともし火の光があなたを照らす時のように、全体は光に満ちる」――ルカ 11:34-36。

Ⅴ．信者は人を捕る漁師です――マタイ 4:16-20：

A．人を捕る漁師になるとは、この世（海とその死の水とによって表徴される）から人を連れ出して、天の王国の中へともたらすことです――ルカ 5:10。

B．人々をこの世から連れ出して、天の王国の中へともたらす道は、王国の福音、すなわち、神の全体的な救いの福音を、人の住む全地に宣べ伝えることによります――マタイ 24:14．ルカ 4:18-19．エペソ 3:8-9。

©2026 Living Stream Ministry